

事業の概況

預金積金の状況 (預金積金残高の推移)

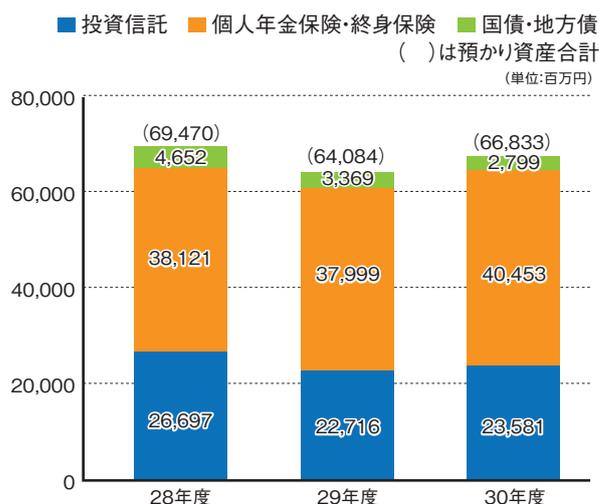
積金預金は、個人預金が163億円、一般法人預金が95億円、公金預金が77億円とそれぞれ増加し、金融機関預金が10億円減少したものの、期末残高は1兆960億円となり前年度から326億円増加（増加率3.07%）しました。



預かり資産の状況

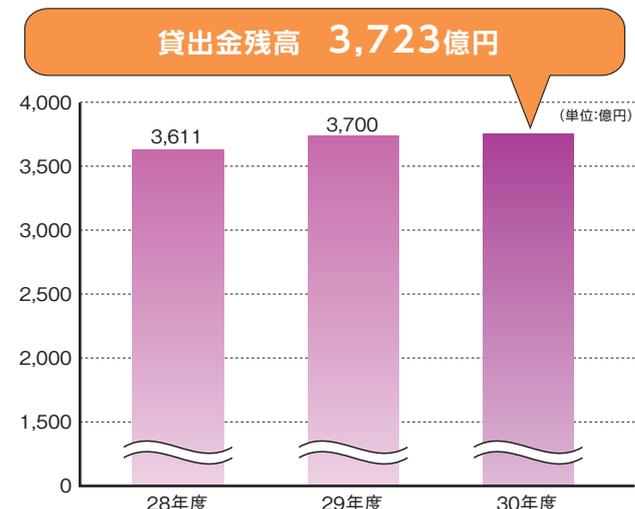
国債・地方債、投資信託、個人年金保険等を合算した預かり資産残高は668億円となりました。

金融商品の品揃え充実やマネーアドバイザースタッフ（金融商品専門担当者）の育成・配置により、今後もお客さまのニーズに合致した各種金融商品の販売充実に努めてまいります。



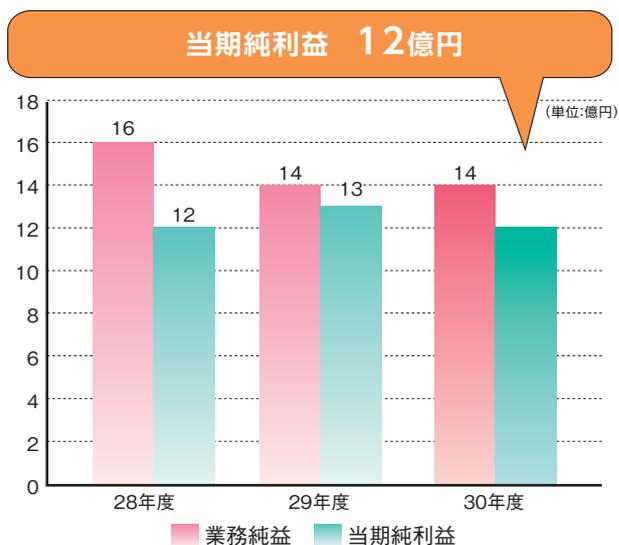
貸出金の状況 (貸出金残高の推移)

貸出金は、個人事業者向け貸出が11億円減少しましたが、個人向け貸出が12億円の増加、法人（公金等含む）向け貸出が21億円の増加となり、期末残高は3,723億円となり前年度から23億円増加（増加率0.62%）しました。



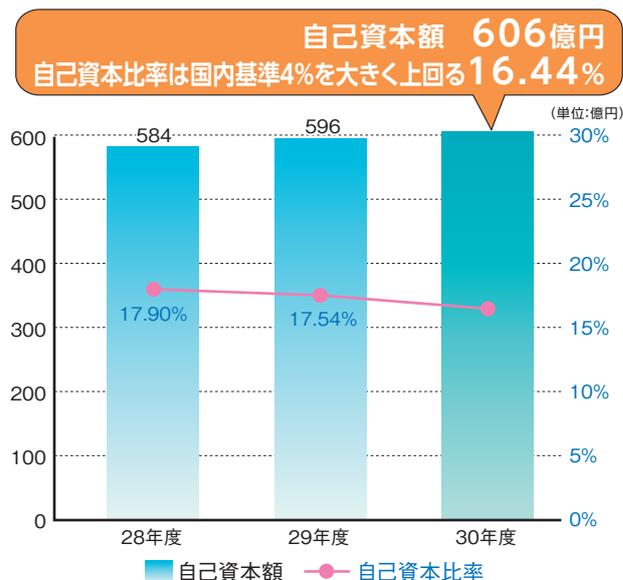
収益の状況（業務純益と当期純利益の推移）

金融機関の営業利益に相当する利益をあらわす業務純益は前期比91百万円増加し、14億98百万円となりましたが、最終の税引後利益をあらわす当期純利益は96百万円減益の12億10百万円となりました。



自己資本比率の状況（自己資本比率等の推移）

単体自己資本比率は、16.44%（前期比1.1ポイント低下）となり、国内基準4%の4倍を超えており当金庫の経営が健全かつ安全であることを示しています。安定した利益確保の継続により、リスクへの備えとしての自己資本額は606億円にのぼります。



金融再生法に基づく開示債権残高・構成比

金融再生法上の不良債権比率は0.56ポイント低下し2.75%となりました。

今期も償却とともに適正な引当を実施しており、厚い内部留保とあわせて当金庫の不良債権に対する備えは万全です。

